



INTERVIEW

ヒロシマ平和学習受入プログラムへ参加します

戦後80年を機に、被爆の実相を風化させず、児童生徒の平和への意識を高めていくため、「ヒロシマ平和学習受入プログラム」に、市立小中学校7校28人の児童生徒を派遣します。プログラムでは、8月6日(木)に、平和記念式典と全国こども平和サミットへ参加します。参加する子どもたちの平和への思いを聞きました。



命の大切さと戦争の悲惨さを考える

私の小学校は、病院として使われていて、当時から残る柳の木も原爆のつらさを感じていると思う。

平和とは、みんなが取り残されずに笑顔で過ごせることと思ひやりの心を持つことだと思う。

8月6日は命の大切さと戦争の悲惨さを考える1日。当日は参列者に平和への思いを聞いてみたい。

みんなが助け合い、安心して生きていける世界

近年、世界では戦争で罪のない子どもたちが亡くなっている。また、社会科見学で平和記念資料館に行ったときには、悲惨な状況を見て胸が痛くなった。今は本当に平和なのか考えたい。

世界中で戦争が起こらないことが当たり前になってほしい。



公平と平等の世界を

小学生の時に、貧困や危機をなくすにはどうすればいいか、授業で考えたことをきっかけに、平和に関する仕事に就くことが夢になった。戦争のことを学び、自分にできることを考え、被爆者との対話やプログラムに臨みたい。

平和とは、一人一人がしっかり自分の意見を言えることだと思う。誰もが“普通”に生活できる環境を支援するような仕事に関わりたい。



日頃できることを

平和記念公園には小さい頃にしか行ったことがない。8月6日は、つらい思いをした人のことを思い、お祈りをする大事な日。対等に話し合い、問題解決ができることが平和であり、戦争で二度と犠牲者が出ないでほしい。聞いたことをみんなに話すなど、日頃からできることを考えたい。

取材協力校：廿日市小学校、佐方小学校、友和小学校、七尾中学校、四季が丘中学校
取材協力者：木下美希さん、佐々木寛史さん、滝本凌久さん、中島陸登さん、中本心彩さん、野田智沙都さん、原小鈴さん、船越太陽さん、森新咲良さん、山田杏湊さん、山戸心結さん



みんなが自分らしく

広島に住んでいるからには、平和のことを知っておきたいと思い参加を決めた。一人一人が周囲の気にかければ思いやり

や優しさが広がる。みんなが安心して自由に生きることができる世界になってほしい。

世界の戦争が終わりますように

お父さんから歴史や平和の話聞いたことをきっかけに、もっと学びたいと思い、立候補した。8月6日は悲しいイメージがあるが、今まで、被爆者から話を聞いたことがないので、当時の状況をしっかりと聞きたい。世界で起きている戦争が終わることを願っている。



当時の状況や思いを聞きたい

たくさんの本を読む中で、当時の状況などを聞きたいと思い、立候補した。8月

6日はサイレンや悲鳴などがあがり、悲惨な状況だったと思う。みんなが笑い合って、いろいろな人と遊べるような世界になってほしい。

学校の代表として

学校の代表として、被爆者の話をしっかりと心に残しておき、原爆の大変さをクラスみんなに伝えたい。世界中の戦争がなくなり、みんなが安心して暮らせるようになってほしい。

式典に参加できる貴重な機会

今まで、式典をテレビで見れていたが、実際に参加する機会はないため参加を決めた。8月6日はたくさんの命が失われた日であり、平和の大切さを考える日。参加前に本を読み、被爆者へどのようなことを聞か、より深く考えたい。

次の世代へ

小学生のときにテレビで式典を見ていて、広島県民としていつか参加したいと思っていた。

被爆者も高齢化している状況。当時の状況、同い年の子どもたちの生活がどのようなものだったか、話を聞き、次の世代へ忘れないように伝えていきたい。

消えない感情や思い

平和に関する話を普段お母さんとする。当時の消えない感情や思いを実際に聞きたいと思い、参加を決めた。戦争に対して、不安や心配を抱えている人が世界にはたくさんいる。不安がない世の中になってほしい。



平和の大切さを未来へつなぐ

問い合わせ 総務課 ☎9100

その後行われた意見交換では、生徒代表として、岩谷恵都さんが「原爆で数え切れない何かを失い、とても苦しかったと思う。毎日があることが当たり前ではない。自分たちが後世に伝えていくための鍵になることに責任を持ち、少しでも原爆や戦争のことを考えていきたいと思います」と全校生徒に呼びかけました。

また、生徒代表の向井良太さんは「平和であることは難しく、ありがたいことだと思います。感謝して生きていきたい。戦争のことを知ること、命の大切さや友情を考えることができると思う。未来に向け、事実を重く受け止め、非核平和を求めて世界へ発信していきたい」と話しました。



▲壇上で、生徒や講師が意見を交わしました



▲全校生徒で講演を聞きました



▲貼り付けは、5、6年の児童委員が休み時間を使って仕上げました

廿日市小学校では、毎年平和の大切さを考える「碑前祭」が行われています。碑前祭は当時救護所となった同校で亡くなった人の慰霊のため、平成12年に「平和の碑」が建てられたことから始まりました。

戦後80年非核平和事業に関して詳しくは市ホームページを確認してください



▲100羽を超える折り鶴で作られた作品。全ての鶴の中には、子どもたちの平和への思いが書かれている

ありました。また、子どもたち皆で折った鶴を貼り付けた作品も校内に掲出されました。

廿日市市は、非核宣言都市です

市は、昭和60年7月30日に、「核兵器廃絶宣言」を行っています。世界で唯一の被爆国として、広島・長崎の悲劇を二度と繰り返さないことを誓い、核兵器廃絶・恒久平和をめざしています。



▲市役所付近（宮島街道沿い）にある宣言柱